

浪曲映画祭

風景に節が流れると、情景になる。

情念の美学



浪曲師と曲師紹介

浪曲師 天中軒雲月

岐阜県郡上市八幡町出身。昭和43年、四代目天中軒雲月入門して月子を名乗る。昭和49年、岐阜県郡上市八幡にて「名披露目年明け披露」、昭和56年名古屋・御園座にて「東西顔見世豪華浪曲名人大会」幹部昇進披露。平成20年、五代目天中軒雲月を襲名。現在(社)日本浪曲協会理事。師匠ゆずりの「赤穂義士銘々伝 安兵衛婿入り」ほか、忠臣蔵の外伝「佐倉義民伝 決戦藤流島」などを手掛ける。



浪曲師 真山隼人

1995年鈴鹿市生まれ。15歳で二代目真山一郎入門。2011年16歳で心寺門前浪曲寄席でデビュー。2014年10月真山誠太郎門下に移籍したのを機に、曲師沢村さくらと二人三脚の舞台を務めるようになり、2018年文化庁芸術祭新人賞を受賞。「円山忠孝」「名刀稲荷丸」「西村権四郎」等の古典を演じる傍ら、自身で書いた新作浪曲「ビデオ屋の暖簾「うんこ」」等も手掛ける。



浪曲師 木村勝千代

11歳で初舞台。親の勤めて聴いた二葉百合子の歌謡浪曲「岸壁の母」に号泣。周囲の勤めて、関東節の最長老、木村松太郎入門。師匠譲りの「芝浜の草財布」「慶安太平記」の他、自作の新作では「まっ黒なおべんとう」で原爆伝える浪曲師」と取り上げられる。四半世紀を経て、再び浪曲の舞台へ復帰。現在、唯一の木村派。



浪曲師 玉川奈々福

神奈川県横浜市出身。1995年二代目玉川福太郎に曲師(浪曲三味線)として入門。2001年より浪曲師としても活動。2006年奈々福で名披露目。さまざまな浪曲イベントをプロデュースする他、自作の新作や長編浪曲も手掛け、他ジャンルとの交流も多岐にわたって行う。(社)日本浪曲協会理事。2018年度文化庁文化交流使として、中欧、中央アジア7か国で公演を行った。第11回伊丹十三賞受賞。



浪曲師 玉川太福

新潟県新潟市出身。2007年、二代目玉川福太郎入門して太福を名乗る。同年11月、浅草木馬亭にて初舞台。2013年、浅草木馬亭にて名披露目。2015年、第二回渋谷らくご創作大賞。2017年、第72回文化庁芸術祭 大衆芸能部門 新人賞受賞。年間50公演を超える独演会を開催し、浪曲定席木馬亭をはじめ、落語の定席にも出演。古典の名作を継承する一方、さまざまな自作新作も手掛ける。



浪曲師 国本はる乃

「お前はピアノって顔より三味線って顔だな」筑波市にいる父の友人の言葉がきっかけとなり九才で浪曲と出会う。大棒の三味線が掴めず、まずお歌から、と騙され台本を買い半年で成田山新勝寺奉納演奏会で初舞台。高校を卒業と同時に浪曲協会の門を叩き正式にプロとして活動開始。



活動写真真弁士 坂本頼光

1979年東京生まれ。中学2年頃より映画熱にとりつかれ、活動写真真弁士を志す。2000年「鞍馬天狗」前篇の説明でデビュー。以降、時代劇作品を中心に全国各地でライブを行い、現在までの説明作品は約120本。2010年にエール大ほか、米国5大学の公演に参加。アニメの声優やCMナレーションなどこなす。2018年国立演芸場花形演芸大賞受賞。



曲師 玉川みね子

酒田市出身。二代目玉川福太郎との結婚を機に、1976年に山本太一入門。1978年木馬亭で初舞台。以後は福太郎の弟子、玉川太福をはじめ多くの演者と共演、TV・ラジオにも出演している。



曲師 沢村さくら

千葉大在学中より浅草木馬亭に通い、2000年に沢村豊子に弟子入り。同年11月「國友忠の会」で初舞台。2005年以降は大阪を中心に活動。また曲師にスポットを当てた曲師の会や、一日に三か所公演するあべの浪曲フェスなども主催する。



曲師 沢村美舟

1989年生れ。千葉県は佐倉市出身。義太夫から三味線に興味を持ち、木馬亭に通ううち浪花節に魅せられる。2015年に日本浪曲協会主催の三味線教室に通い、同年6月曲師沢村豊子入門。翌年4月木馬亭にて初舞台。



曲師 沢村まみ

神奈川県相模原市出身。歌舞伎や落語、講談など様々な芸に触れるなかで浪曲に出会い、「浪曲は人間の叫び」と感じ衝撃を受ける。浪曲を彩る師匠のお三味線の音色に惚れ、曲師を志すことを決意。2019年3月、沢村豊子入門。翌年6月、木馬亭にて初舞台。

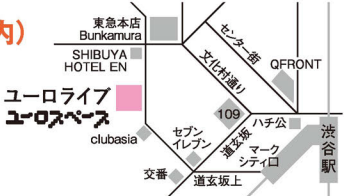


PLACE 会場

ユーロライブ(ユーロスペース内)

渋谷駅下車、Bunkamura前交差点左折
渋谷区円山町1-5 KINOHAUS 2F/3F
問合せ:03-6675-5681/03-3461-0211

<http://eurolive.jp/>
<http://www.eurospace.co.jp/>



「浪曲映画—情念の美学2022」
主催:ユーロスペース 企画:ユーロスペース+大分シネマ5
企画監修:玉川奈々福
映画提供:国立映画アーカイブ、KADOKAWA 東宝、日活、松竹、東映
協力:国立映画アーカイブ、J!
「映画ミーツ浪曲2021」上越 高崎 松本 横浜 尾道 大分 熊本 鹿児島
「映画ミーツ浪曲2020」大分 深谷 高崎 松本 沖縄
「映画ミーツ浪曲2019」大分 北九州 熊本 京都 大阪 神戸 横浜 深谷 高崎

2022年 6.24(金曜日) - 27(月曜日)
渋谷・ユーロライブ(ユーロスペース内)

浪曲映画祭

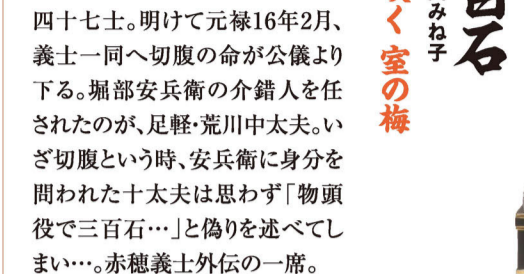
情念の美学

いろは長屋に住む権三と助十は、駕籠かきの兄弟分。ある晩のこと、通りかかった松の根方に、十六夜の月の光に照らされた大きな葛(つづら)。「きつと着物と帯で一杯だ。大金もうけだ」と喜んで長屋に持ち帰るが、蓋を開けてみれば鼻先へ、ぶんと匂った生臭さ……。ちよっぴり怪談風人情話・前編。



24日(金)「権三と助十」上映後

商人・天野屋利兵衛宅から見つかった大量の武器。誰に頼まれた集めたと、大坂町奉行松野河内守が追及するが、頑として口を割らない。奉行は天野屋の幼い体と呼び、白状しなければ火攻めにかけて利兵衛を脅す。だが利兵衛は屈しない。頼んだ相手を言ったなら、浪士たちの苦勞はその一言で水の泡……。どうなる天野屋。



24日(金)「続・座頭市物語」上映後

商人・天野屋利兵衛宅から見つかった大量の武器。誰に頼まれた集めたと、大坂町奉行松野河内守が追及するが、頑として口を割らない。奉行は天野屋の幼い体と呼び、白状しなければ火攻めにかけて利兵衛を脅す。だが利兵衛は屈しない。頼んだ相手を言ったなら、浪士たちの苦勞はその一言で水の泡……。どうなる天野屋。



24日(金)「大阪町人」上映後

雲州松江のお殿様に気に入られた上州屋の一人娘のおなみ。妾にならなければ死体で下げ渡すと言われ、上州屋は頭を悩ましていた。そこに登場したのが、お教寄屋坊主の河内山。松江邸の殿様を向かうに回してもおなみを助けると一思案。上野寛永寺の一品親王官家の使僧へと化け込み、松江邸にと乗り込む。



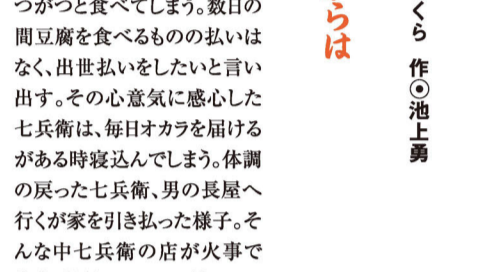
25日(土)「天保泥絵草子」上映後

上野黒門町上州屋の娘・お浪を見事に雲州出羽守公の屋敷から取り戻した、お教寄屋坊主の河内山宗俊。上州屋からお札に五百両という金をもらい、盆と正月がいつべんに来たような大騒ぎ。ところがこの噂を聞きつけたのが、本郷大根畑に住まいする御家人崩れの片岡直次郎。河内山も悪党なら、直次郎も悪党、二人の器量の探り合い。



25日(土)「河内山宗俊」上映後

豆腐屋上総屋七兵衛が一人の男に声をかけられる。男は豆腐を一丁頼み、その場でがつがつと食べてしまう。数日の間豆腐を食べるものの払いはなく、出世払いをしようと出出す。その心意気に感心した七兵衛は、毎日オカラを届けるがある時寝込んでしまう。体調の戻った七兵衛、男の長屋へ行くが家を引越した様子。そんな中七兵衛の店が火事で焼失、呆然としている所へ……。



26日(日)「義士始末記」上映前

いよいよ討ち入りが近くなり、赤穂浪士の面々は姿を替えて江戸へと向かった。浪士の一人杉野十平次は蕎麦屋に身を替えて、吉良の屋敷あたりを探るうちに、槍の使い手俵屋玄蕃と親しくなる。そんな折、ある日俵屋の道場を訪ねるといつもよりやつ果てた玄蕃の姿がある。話に訊けばこれ皆赤穂浪士の為だという。男と男、武士と武士の友情物語。



26日(日)「忠臣蔵 暁の陣太鼓」上映後

不動の新助の名で世を渡っていた国定忠治、ひよんな事から友太郎という小僧と出会う。聞けば亀家満蔵という男の為に父親は殺され姉は無理矢理女房にさせられてしまうという。聞いたからには素通りできぬと姉を助け出した忠治、それから二十年経った風の晩、お尋ね者となった忠治を追ってきた一人の男。果たしてそれは……!!



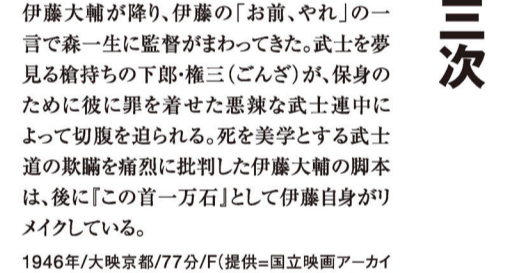
27日(月)「狐の呉れた赤ん坊」上映後

母の訃報を受け、岡山県備中高梁へむかった博とさくら。寅さんも葬儀に駆け付け、その元居に居残ることに。「本当の人の暮らし」を教わり、改心した心持ちで柴又へ戻った寅さんの前に、女手一つで小学生の息子を育てる六波羅貴子が現れて……。マドンナ・貴子を池内淳子、鷹一郎を志村喬が演じるシリーズ第8作を、太福が浪曲化。



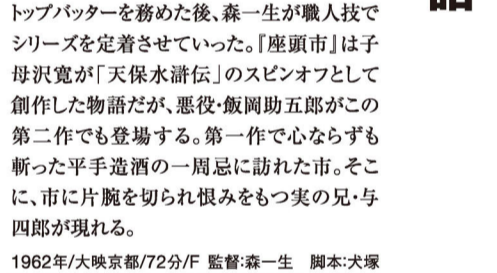
27日(月)「おけさ姉妹」上映後

もともとは伊藤大輔が主演で撮る予定だった作品。主役が石川文門になったことで伊藤大輔が降り、伊藤の「お前、やれ」の一言で森一生に監督がまわってきた。武士を夢見る槍持の下部・権三(ごんざ)が、保身のために彼に罪を着せる悪辣な武士連中によって切腹を迫られる。死を美学とする武士道の欺瞞を痛烈に批判した伊藤大輔の脚本は、後に「この首一万石」として伊藤自身がメイクしている。



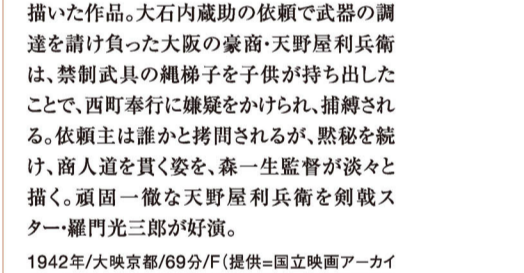
24日(金) 12:00

勝新太郎の二大ヒットシリーズ、「座頭市」、「悪名」は、それぞれ三隅研次、田中徳三がトップバッターを務めた後、森一生が職人技でシリーズを定着させていった。「座頭市」は子母沢寛が「天保水滸伝」のスピンオフとして創作した物語だが、悪役・飯岡助四郎がこの第二作でも登場する。第一作で心ならずも斬った平手造酒の一周忌を訪れた市。そこに、市に片腕を切られ恨みをもつ兄・与四郎が現れる。



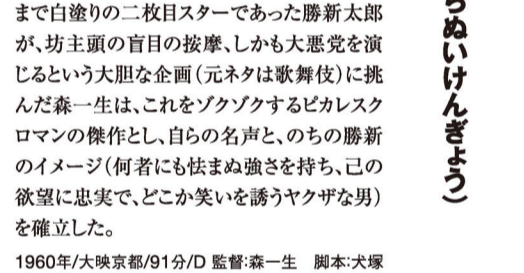
24日(金) 14:20

「天野屋利兵衛(あまのやりへえ)は男でござる」の決め台詞で有名な天野屋利兵衛を描いた作品。大石内蔵助の依頼で武器の調達を請け負った大阪の豪商・天野屋利兵衛は、禁制武器の縄梯子を子供が持ち出したことで、西町奉行に嫌疑をかけられ、捕縛される。依頼主は誰かと拷問されるが、黙秘を続け、商人道を貫く姿を、森一生監督が淡々と描く。頑固一徹な天野屋利兵衛を剣戟スター・羅門光三郎が好演する。



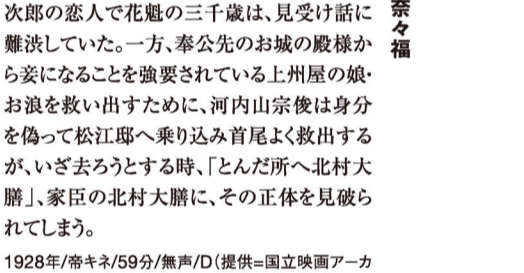
24日(金) 16:40

森一生監督の代表的傑作で、勝新太郎の「座頭市」シリーズの原型となった作品。それまで白塗り二枚目スターであった勝新太郎が、坊主頭の盲目の按摩師、しかも大悪党を演じるという大胆な企画(元ネタは歌舞伎)に挑んだ森一生は、これをノックするビカレスクロマンの傑作として、自らの名声と、のちの勝新のイメージ(何者にも怯まぬ強さを持ち、己の欲望に忠実で、どこか笑いを誘うヤクザな男)を確立した。



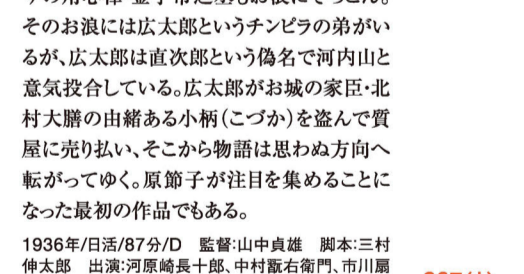
24日(金) 18:45

「天保六花撰」を映画化した昭和3年のサイレント映画。舞台は天保時代の江戸の町。直次郎の恋人で花魁の三千歳は、見受け話に難渋していた。一方、奉公先のお城の殿様から妾になることを強要されている上州屋の娘・お浪を救い出すために、河内山宗俊は自身を偽って松江邸へ乗り込み首尾よく救出するが、いざ去ろうとする時、「とんだ所へ北村大膳」、家臣の北村大膳に、その正体を見破られてしまう。



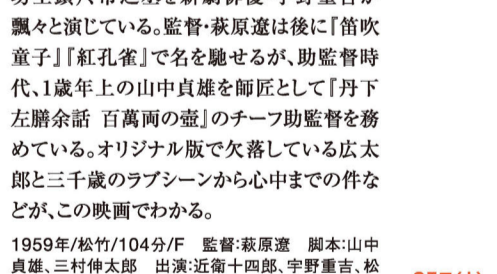
25日(土) 11:30

数寄屋坊主の河内山宗俊は甘酒屋の娘・お浪が可愛いって仕方ない。もう一人、地のヤクザの用心棒・金子市之丞もお浪にぞっこん。その用心棒には広太郎というチンピラの弟がいるが、広太郎は直次郎という偽名で河内山と意気投合している。広太郎がお城の家臣・北村大膳の由緒ある小柄(こづか)を盗んで質屋に売り払い、そこから物語は思わぬ方向へ転がってゆく。原筋が注目を集めることになった最初の作品でもある。



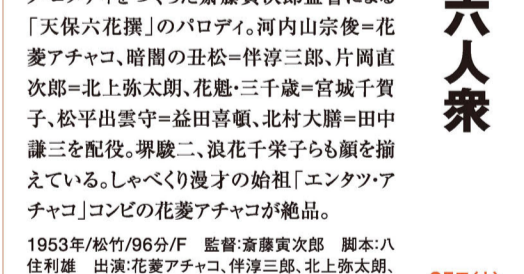
26日(土) 13:30

山中貞雄の弟子による「河内山宗俊」の完全リメイク。河内山を近衛十四郎が貫禄たっぷりに演じ(もちろん坊主頭)、市之丞を新劇俳優・宇野重吉が颯々と演じている。監督・萩原遼は後に「笛吹童子」「紅孔雀」で名を馳せるが、助監督時代、1歳年上の山中貞雄を師匠として「丹下左膳余話 百萬両の壺」のチーフ助監督を務めている。オリジナル版で欠落している広太郎と三千歳のラブシーンから、中までの件などが、この映画でわかる。



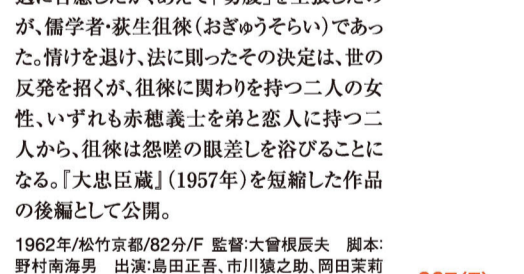
25日(土) 16:20

「ドタバタの寅さん」と呼ばれ、サイレント映画時代から生涯に200以上のスラップスティック・コメディをつくらった斎藤寅次郎監督による「天保六花撰」のパロディ。河内山宗俊は花菱アチャコ、暗闇の丑松は伴淳三郎、片岡直次郎は北上弥太郎、花魁三千歳は宮城千賀子、松平出雲守は益田喜頓、北村大膳は田中謙三を配役。堺駿二、浪花千栄子も顔を揃えている。しゃべり漫才の始祖「エンタツ・アチャコ」コンビの花菱アチャコが絶品。



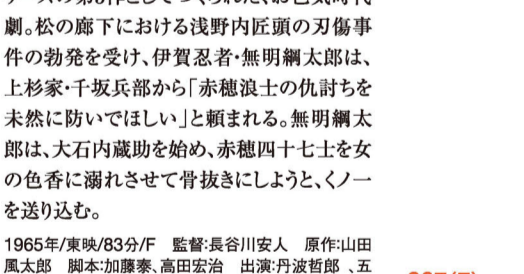
25日(土) 19:20

元禄十五年、赤穂四十七士が本懐を遂げた後、世間が彼らを称賛する中、幕府はその処遇に苦慮したが、あえて「切腹」を主張したのが、儒学者・荻生徂徠(おぎゅうそらい)であった。情けを返け、法に則ったその決定は、世の反発を招くが、徂徠に関わりを持つ二人の女性、いずれも赤穂義士を弟と恋人に持つ二人から、徂徠は怨望の眼差しを浴びることになる。『大忠臣蔵』(1957年)を短縮した作品の後編として公開。



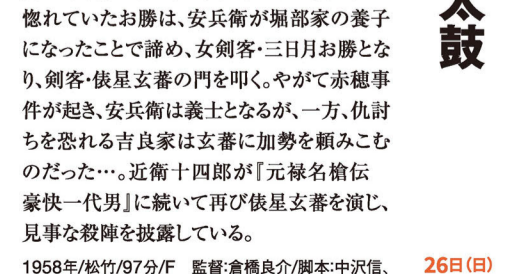
26日(日) 12:20

忠臣蔵を換骨奪胎した作品は、数多くある。この作品は、山田風太郎原作の「ノ」シリーズの第3作としてつくられた。お色気時代劇。松の廊下における浅野内匠頭、刃傷事件の勃発を受け、伊賀忍術・無明綱太郎は、上杉家・千坂兵部から「赤穂浪士の仇討ちを未然に防いでほしい」と頼まれる。無明綱太郎は、大石内蔵助を始め、赤穂四十七士を女の色香に溺れさせて骨抜きにしようとする。色香を送り込む。



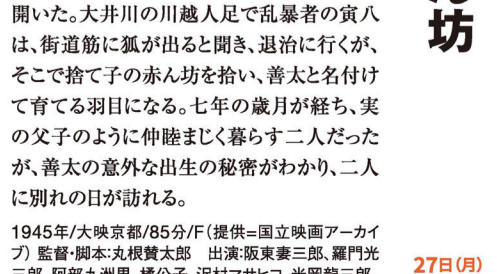
26日(日) 14:15

高田馬場の決闘で男をあげた「のんだくれ安」の異名を持つ中山安兵衛。その安兵衛に惚れていたお勝は、安兵衛が彌部家の養子になったことで諦め、女剣客・三日月お勝となり、剣客・俵屋玄蕃の門を叩く。やがて赤穂事件が起き、安兵衛は義士となるが、一方、仇討ちを恐れる吉良家は玄蕃に加勢を頼みこむのだった……。近衛十四郎が「元禄名槍伝 豪快一代男」に続いて再び俵屋玄蕃を演じ、見事殺陣を披露している。



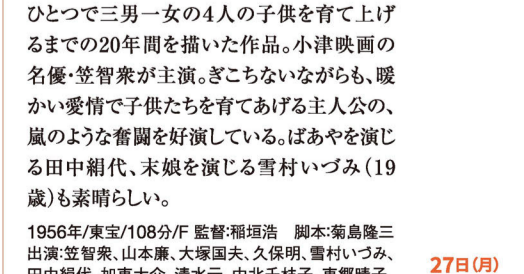
26日(日) 16:15

阪東妻三郎の戦後第一回主演作品。GHQによってチャンバラが禁止されていた中、剣戟スター・阪東が人情時代劇に挑み、新境地を開いた。大井川の川越人足で乱暴者の寅八は、街道筋に狐が出ると思いきや、退治に行くが、そこで捨て子の赤ん坊を拾い、善太と名付けて育てる羽目になる。七年の歳月が経ち、実の父子のように仲睦まじく暮らしていたが、善太の意外な出生の秘密がわかり、二人に別れる日が訪れる。



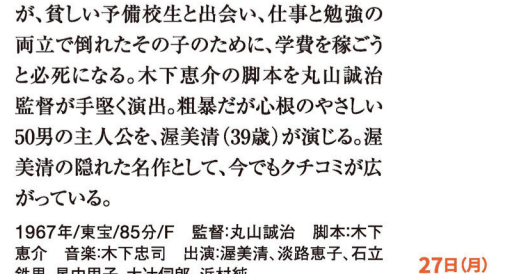
27日(月) 12:00

時代劇の巨匠・稲垣浩には、「手をつなぐ子等」など子供の世界を描いた秀作がある。「嵐」は、妻に先立たれた大学教授が、男手ひとつで三男一女の4人の子供を育て上げるまでの20年間を描いた作品。小津映画の名優・笠智衆が主演。どこか懐かしいながらも、暖かい愛情で子供たちを育てあげる主人公の、嵐のような奮闘を好演している。ばあやを演じる田中絹代、末娘を演じる雪村いづみ(19歳)も素晴らしい。



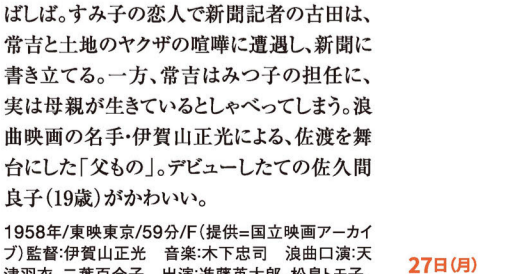
27日(月) 14:20

戦後、外地からの帰還が遅れたことで戦死したと思われ、妻が弟と結婚してしまつた男・義太郎は、全国の工事現場を渡り歩いていたが、貧しい予備校生と出会い、仕事と勉強の両立で倒れたその子のために、学費を稼ごうと必死になる。木下惠介の脚本を丸山誠治監督が手堅く演出。粗筋だが心根のやさしい50男の主人公を、瀧美清(39歳)が演じる。瀧美清の隠れた名作として、今でもクチコミが広がっている。



27日(月) 16:40

佐渡の灯台に勤めるすみ子とみつ子の姉妹。男手ひとつで二人を育てる父親・常吉はヤクザ者で、姉妹に苦労を背負わすこともしばしば。すみ子の恋人で新聞記者の吉田は、常吉と土地のヤクザの喧嘩に遭遇し、新聞に書き立てる。一方、常吉はみつ子の担任に、実は母親が生きているとしゃべってしまう。浪曲映画の名手・伊賀山正光による、渡邊を舞台にした「父の」。デビューした佐久間良子(19歳)がかわい。



27日(月) 18:30

映画ミーツ浪曲——浪曲映画——の再発見

1929年、映画は無声からトーキーになったことで、演出の大転換を迫られる。多くの時代劇は人形浄瑠璃や歌舞伎のように、義太夫が節と語りで物語を回す日本の伝統的な演劇形式を踏襲、義太夫に代わる役割を浪曲や琵琶語りに託した映画——浪曲トーキー、琵琶トーキーなるものが登場する。

1928年のラジオの全国放送化、SPレコードの本格普及で大ブレイクした寿々木米若の浪曲「佐渡情話」に目を付けた日活が浪曲「佐渡情話」（1934年）を映画化して大成功を収めると、それを契機に各社はあたかも今日の映画界がベストセラー小説やマンガを映画化するように、浪曲口演付きや浪曲・講談演目を脚本とした映画を次々と製作。マキノ雅弘の『次郎長三国志』を頂点として、山中貞雄、成瀬巳喜男、中川信夫、森一生、斎藤寅次郎、三隅研次、加藤泰らも含め、その傾向はTVの登場で急速に人気が衰える1950年代まで続いた。

浪曲は大衆芸能の王者として終戦後まで君臨するが、浪曲の物語に通底する義理人情、通俗的で情緒的な価値観は、近代的自我を目指した知識人、夏目漱石、芥川龍之介、永井荷風らに忌み嫌われ、文芸の世界では「浪花節」という言葉が否定的なレッテルとして最近まで頻繁に使われていた。

しかし、従軍画家を務めたことで戦争協力を問い詰められ、フランスから終生帰国することのなかった藤田嗣治がテーブルレコーダーに声で残した遺言のなかで、しばしば浪曲の節に乗せて語るほどに、浪曲は日本人に浸み込んでいた。

浪曲師・国友忠が「二葉百合子、三波春夫、村田英雄という人たちは、浪曲の自在性を生かし、それぞれ見事に独自の節調を作り上げて成功した、現代の浪曲家だ」と書いているように、浪曲は容容しつつも日本人のDNAを受け継いできた。この特集企画は、いわば私たちのDNAを探り当てる旅でもある。

注記 会場は全てユーロライブとなります

 浪曲 公演は「映画+浪曲」か「映画」の2種類です(各回入替)。浪曲だけの観覧はできません。また、全席指定制ですので予約はお早めに！

6月1日(水) 13時より販売開始

ユーロスペース公式ウェブサイト、ユーロスペース窓口にて販売

 ①映画+浪曲／活弁のみ **一般2,400円／学生・会員2,000円／高校生1,200円**

 ②映画のみの回 **一般1,400円／学生・会員1,200円／高校生800円**

●学生・会員料金の方は、要証明書提示●浪曲だけの観覧はできません●特別興行につき、シニア料金はありません

◎オンライン・チケット
<http://www.eurospace.co.jp/>

●各種クレジットカードでのみご購入いただけます●ご鑑賞前に劇場ロビーにある専用発売機でチケットをお受け取りください。発券機が混雑する場合もあります。早めのご来場をお勧めします。

6.24 金曜日

11:00	
12:00	12:00 ① 槍おどり五十三次 開演 監督=森一生 出演=市川右太衛門、羅門光三郎、月形龍之介
13:00	 ① 権三と助十 13:55 終了 浪曲=玉川 太福 曲師=玉川みね子
14:00	
15:00	14:20 ② 続・座頭市物語 開演 監督=森一生 出演=勝新太郎、水谷良重、万里昌代
16:00	 ② 誉れの三右衛 16:10 終了 浪曲= 玉川 太福 曲師= 玉川みね子
17:00	
18:00	16:40 ③ 大阪町人 開演 監督=森一生 出演=羅門光三郎、阿部九州男、荒木忍
19:00	 ③ 天野屋利兵衛 18:25 終了 浪曲=天中軒雲月 曲師=沢村美舟
20:00	18:45 ④ 不知火検校 開演 監督=森一生 出演=勝新太郎、中村玉緒、近藤美恵子
21:00	 ④ トーク「森一生映画旅」山根貞男 ※1 20:20~21:00 終了

※1 18:45の回の入場券が必要です(席は先回優先)

Aプログラム

生誕111年・森一生映画旅

1911年生まれ、今年が生誕111年となる生粋のカツドウ屋・森一生。そのフィルモグラフィには、浪曲がらみのもの(劇中に浪曲が流れる、いわゆる「浪曲映画」はないが、浪曲とネタを共通する作品)が少なくない。森一生が、というより、映画会社がそうした企画をあてがったことによるものだが、ここにも、映画と浪曲の、大衆娯楽としての親近性があらわれている。森一生の監督第二作『祐天吉松(ゆうてんきちまつ)』、『次郎長富士』などの次郎長もの、『銭形平次』シリーズ、『決闘鍵屋の辻』、『鯉名の銀平』など、これらは浪曲によってお馴染みであることで製作されたものである。パタヤンこと田端義夫が主演した『月の出船』(1950年)には当時人気絶頂の浪曲師・広沢虎造が出演している。また、森一生最高傑作の1本『薄桜記』も忠臣蔵・堀部安兵衛にまつわるスピンオフである。こうした浪曲がらみの作品は、当然ながら、浪曲人気が下火になるとともにつくれなくなったわけだが、その頃(昭和30年代後半)から、森一生は、大映の第一線の監督として絶頂期を迎え、スター街道を歩み始めた勝新太郎や市川雷蔵の主演作を次々と手掛けることになってゆくのだった。

6.25 土曜日

11:30	 ⑤ 天保泥絵草紙 開演 活弁=坂本頼光 三味線=玉川奈々福 監督=山下秀一 出演=明石緑郎
13:10	 ④ 河内山玄閑先 浪曲=木村勝千代 曲師=沢村まみ
13:30	 ⑥ 河内山宗俊 開演 監督=山中貞雄 出演=河原崎長十郎、中村靉右衛門、原節子
15:50	 ⑤ 河内山と直侍 浪曲= 玉川奈々福 曲師= 沢村まみ
16:20	 ⑦ 江戸遊民伝 開演 監督=萩原遼 近衛十四郎、宇野重吉、松本錦四郎
18:10~18:50	対談:坂本頼光 × 玉川奈々福 ※2 天保六花撰のグイグイ味
19:20	 ⑧ 勢揃い大江戸六人衆 開演 監督=斎藤寅次郎 出演=花菱アチャコ、伴淳三郎、宮城千賀子
20:57	終了

※2 16:20の回の入場券が必要です(席は先回優先)

Bプログラム

天保六花撰を味わう

天保六花撰(てんぱうろっかせん)は、二代目松林伯圓(しょうりんはくえん)による講談である。天保時代の江戸の町を闊歩する六人の男女の痛快な物語。これが浪曲化され、木村重友、木村友衛ら、木村派のお家芸となった。六人は小悪党で、彼らが悪党の権力者に立ち向かうというお話だ。その中心人物は、お数寄屋坊主(お城で大名や旗本に茶をふるまう茶坊主)の河内山宗俊。松江の殿様が妾にしようとした上州屋の娘を助け出すために、高僧と偽って登城して一世一代の大芝居を打ち、みごと娘を取り戻す。ところが、さあ帰ろうとしたところで、家老の北村大膳に正体を見破られる…。河内山の弟分の片岡直次郎・通称「直侍(なおざむらい)」、直侍にぞっこんの花魁、三千歳(みちとせ)の他、剣客・金子市之丞(いちのじょう)、暗闇の丑松(うしまつ)、森田屋清蔵(せいざう)らが入り乱れて、物語は進む。無声映画時代から幾度も映画化されているが、山中貞雄『河内山宗俊』が無論、白眉である。また、歌舞伎「天衣紛上野初花(くもにまごううえののはつはな)」も人気演目として知られている。なお、お話は創作だが、河内山をはじめとする登場人物は実在した人物である。

6.26 日曜日

11:30	 ⑥ 祖伝豆腐 開演 浪曲=真山単人 曲師=沢村さくら
13:42	終了
14:15	 ⑩ 忍法忠臣蔵 開演 監督=長谷川安人 出演=丹波哲郎、桜町弘子、三島ゆり子
15:38	終了
16:15	 ⑩ 忠臣蔵 暁の陣太鼓 開演 監督=倉橋良介 出演=森美樹、嵯峨三智子、近衛十兵衛
18:30	終了

Cプログラム

忠臣蔵番外篇

浪曲の最大の定番演目である忠臣蔵・赤穂義士伝には、江戸城・松の廊下での刃傷事件から四十七士の討入・切腹までを描く(本伝)のほか、四十七士の討入までの個々のエピソードを描いた(義士銘々伝)、四十七士以外の周辺的人物を扱った(義士外伝)がある。(義士外伝)には、実際にはいなかった人物を創作したものもあり、その代表格が槍の名手・俵屋玄蕃である。荻生祖徕は、浪曲・講談・落語の「祖徕豆腐」で知られるが、いわゆる義士伝とは遠く離れた外伝の登場人物である(実在した)。その荻生祖徕が四十七士の切腹を進言したのだが、真山青果が著した「元禄忠臣蔵」における、最期の切腹にまつわる話が浪曲「大石最後の日」である。「ことを成し遂げるために忍従する」という忠臣蔵的なモチーフをさらに広げるかたちで、さまざまなストーリーがにつくれ、それらに大衆が膝をうつ。その総体が忠臣蔵だと言えるだろう。パロディ映画も多く作られ、『珍説忠臣蔵』『ドドンパ酔虎伝』『ギャング忠臣蔵』『サラリーマン忠臣蔵』、『わんわん忠臣蔵』等々、最近では『決算!忠臣蔵』もつくられたが、いわゆるメインストリームを往く忠臣蔵映画は最近では作られていない。

6.27 月曜日

12:00	 ⑫ 狐の呉れた赤ん坊 開演 監督=丸根賛太郎 出演=阪東妻三郎、阿部九州男、橋公子
14:00	終了
14:20	 ⑧ 忠治閑宿落ち 開演 浪曲=國本はる乃 曲師=沢村美舟
16:08	終了
16:40	 ⑬ 嵐 開演 監督=稲垣浩 出演=笠智衆、雪村いづみ、田中絹代
18:05	終了
18:30	 ⑭ 父子草 開演 監督=丸山誠治 出演=瀧美夏、石立鉄男、淡路恵子
20:05	終了
18:30	 ⑮ おけさ姉妹 開演 監督=伊賀山正光 出演=進藤英太郎、松島トモ子、佐久間良子
20:05	終了
20:05	 ① 男はつらいよ 寅次郎恋歌 浪曲=玉川太福 曲師=玉川みね子

Dプログラム

父もの映画

浪曲では、行き別れとなった子を思う母の情愛を描いた「母もの」は多くある。よく知られているのはは、二代目天中軒雲月(伊丹秀子)の「九段の母」や二葉百合子の「岸壁の母」など、戦争で母と子が引き裂かれるというものだが、伊丹秀子はその他にも「母の湖」「呼子星」「母の瞳」など多くの母もの浪曲を手がけ、それらを下敷きにした浪曲映画も多数つくられた。だが、「父もの」となると、映画では多くあるものの、浪曲ではめったにない。父親にとっての子というのは「自分が産んだ」わけではなく、情愛が母親とはまったく異なるということもあるだろう。大衆の涙をしばりとるには、父親の情愛では物足りないのかもしれない。一方、映画では、小津安二郎の「父ありき」や「晩春」といった名作をはじめ、「父もの」と言える映画は、枚挙にいとまなくある(『忠次旅日記』も、いわば「父もの」映画と言えるのではないか)。母親のいない家庭のドラマ、あるいは血のつながりのない父と子の物語は、今の社会においてはむしろ珍しくないものとなっている。今回は、「父もの」浪曲映画「おけさ姉妹」を軸に、各監督のフィルモグラフィの中でも異色の「父もの」をプログラムした。

※浪曲口演は約30分。※対談等を御覧いただくには、前後いずれかの入場券が必要です。整理の都合上直前のプログラムのお客様を優先しますので、直後のお客様は空いている席にお座りください。